

## 祈り

日本キリスト教団城陽教会牧師

松田 祈

だから、こう祈りなさい。

『天におられるわたしたちの父よ、

御名が崇められますように。

御国が来ますように。

御心が行われますように、

天におけるように地の上にも。

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

わたしたちの負い目を赦してください、

わたしたちも自分に負い目のある人を

赦しましたように。

わたしたちを誘惑に遭わせず、

悪い者から救ってください。』

(マタイによる福音書 6章 9 節-13 節)

私の名前は祈といいますが、祈という名前は私が生まれる時に長い間入院して、「無事に新しい命が誕生しますように」と、教会の人や周りの人が一生懸命お祈りしてくださったことに由来していると聞きました。自分自身の歩みを振り返ってみても、本当に周りの方にお支えいただき祈っていただき、何とか歩めております。私は小さい時から教会に通い、今も教会に仕えておりますが、自分が祈る者でありたいと願えば願うほど、今までどれだけ多くの方に祈ってきていただいたか、そして今も祈りに包んでいただいていることを思います。

祈りというのは不思議なもので、私たちの喜びも悩みも悲しみも誰かと分け合うことができるのだと感ずますし、共に担ってくださる神という存在に心強さを感じます。誰かのために力になりたいけれど、自分にはできることが限られている、そんな時にお祈りしていると、自分自身もその温かさに包まれる安心感を覚えます。

今日の聖書の箇所は主の祈りの箇所です。主の祈りは有名ですので、皆さんもお聞きになったことがあるかもしれません。イエスは弟子たちの祈りを教えてほしいという願いに対し「祈るときには、こう言いなさい」と祈りを教えられました。この主の祈りは生活や人生に必要な事が祈られています。「天におられる私たちの父よ」という言葉で神との関係を思い起こし、人間を超えた存在に思いを寄せ、共に食べることを喜び、罪の赦しを請い、命が祝福され守られることを願った祈りです。主の祈りは短い祈りではありますが、本当に大切なことが祈られています。主の祈りは言葉が見つからないと

き、紡げない時、沈黙してしまうような時にも祈ることのできる祈りです。皆さんもぜひこの主の祈りを、どこかで思い出したときに読んでみてください。

主の祈りはイエスが教えられた祈りですが、それは具体的な状況の中から出てきた、具体的な言葉であったはずで、神が神であることを示してくださいと、厳しい状況の中で、共に食べる喜びや命が守られることを願っています。私たちは日々具体的な状況の中で生きています。良いことだけでなく、大変なこと、苦しいことがたくさんあると思います。世界では戦争が続いていて、ニュースを見ている様々な希望を抱くことができないような状況に不安や心配がつのります。ふと「もしかしたらイエスも大変だなあ」と、いう思いの中で、それでも神が神であるようにと祈っていたのではないかと、いや今も私たちの隣で祈り続けているのではないかと思います。祈るとき私たちは決して一人ではないのだと力づけられるような思いがします。

祈りとは神との尽きる事のない対話であるということができると思います。自分一人では喜びがあふれてしまうような嬉しいことや、自分一人では抱えきることのできない悩みや、悲しみをも神と対話することができるのです。私自身も娘を出産する時に娘が無事に生まれてくるか分からない状況になり、入院しました。新しい命と出会えるだろうか、娘はお腹の中でどうしているのか、どうなってしまうのかとても不安だったのですが、その時に「命のことはもちろん人間も頑張るけど、神さまの働きに委ねる部分も大きいから、神様と一緒に命を大切にしてください」とお祈りしてくださった方がいました。人間の頑張りを超えたところで、神が共にいて働いてくださるということが大きな励ましになる、また祈りが大きな慰めになることを、身をもって感じました。娘は無事に生まれ、元気に育っており、今も日々温かい祈りに包まれています。

みなさんも、大変だなあとか、どうしていいのかわからなかったり深い悲しみの中にいる時、実はそのことを覚えて祈っている人がいるかもしれません。ぜひそんなことに思いをはせてみてください。